

「うひ山ぶみ」

校長 青山龍三

梅雨が明けないまま、真夏のような暑い日が続いています。さらにこれから暑くなるかと思うと憂鬱になります。しかし、暑いときほど水に入ることはいずれも、



プールからは子どもたちの歓声が聞こえてきます。

さて、PTA 総会で少し話しましたし、新聞などの報道でご存知の方も多いと思いますが、本年度から小学校は新学習指導要領が全面実施されました（中学校は平成24年度全面実施）。授業時数と授業内容が増えることで、『ゆとり』から『学力』への方向転換と受け止めても良いかと思えます。子どもは、「勉強しなさい。」と言われることも増えてくると思えます。「子どもがかわいそう」「自主性や自発性をもっと大事にしてほしい」そんな声も聞こえてきます。しかし、はじめから自主性、自発性を大切に、努力を怠ればどうなるかは、およその見当はつきます。確かに、最後は自主性や自発性が大切ですが、そこに行き着くまでには、努力がいるのです。ある程度の強制力のもとで、課題を克服していくことで、子どもは育つのです。

強要されたものではあっても、できたときの達成感は子どもたちに自信を植え付けます。これでいい、頑張った、次も頑張るぞ、こういう心が生まれてきます。

「うひ山ぶみ」、何のことか、初めて耳にする方もあろうかと思えます。「山ぶみ」とは登山や山歩きをするという意味です。ですから「うひ山ぶみ」とは、初めて山歩きをする人という意味です。これは、最晩年に本居宣長が弟子たちに、「若い人たちのために勉強の仕方を書き残してほしい。」と頼

まれ、書いた本のタイトルです。

そういえば、私も中学校に勤務していたとき、子どもからよく「いい勉強の方法を教えてください。」と聞かれました。その質問に対し、「今は、どんな方法で勉強しているの？」と聞き返すと、「その方法がわからない。」と言うのです。つまり、何もしていない、ということです。彼らが私から聞いたかったことは、「短時間に、楽に」勉強して、すべてを理解する方法です。そもそも、人は忘れる生き物ですから、覚えたことは忘れるようにできているのです。かれらに言ったのは「まず勉強机に座って、思いつくままでいいから勉強を始める。」ことと「長い時間をかけて覚えたことは長い時間をかけて忘れるし、短時間で覚えたことは短い時間で忘れる。」ということでした。

恵那市では「先人教育」「先人学習」と言っていますが、このような姿勢は以前から「先達に学ぶ」として、私たちの生活や学習に生かされてきました。

さて、宣長は「うひ山ぶみ」でどのように言っているのでしょうか。勉強や学問にとっての一番の敵は「思いつくままでいいから勉強を始める。」ことと「長い時間をかけて覚えたことは長い時間をかけて忘れるし、短時間で覚えたことは短い時間で忘れる。」ということでした。



もうすぐ子どもたちには、「長い夏休み」がやってきます。しかし、終わってみれば短いものです。勉強の仕方がわからないというのは一種の「逃げ」です。とにかく机に座って、思いつくままでいいので、勉強をさせてください。努力なくして成長はありません。

